



田園調布中だより

発行日 令和8年6月22日
令和8年度 6月号
大田区立田園調布中学校
校長 田谷 至克

「和」！

大田区立田園調布中学校長 田谷 至克

＜令和8年度 第75回 運動会＞

6月13日（土）、生徒が作成したスローガン「勝敗笑美戦（かっばえびせん）～最高速度でブチ抜いたる！～」のもと、運動会を開催しました。本年度は、久しぶりに「大綱引き」を復活させたり、3年学年種目には「斜方投射」という新しい競技を取り入れたりして、プログラムを工夫しました。また、運動会実行委員は率先して声かけをしながら学年・学級をまとめるとともに、各係の生徒は自分の役割をしっかりと理解し、主体的に動いていました。まさに、こどもたちの頑張りが際立った運動会になりました。

結果、各学年の優勝クラスは、1B 2A 3A でした。総合優勝（縦割り）はA組でした。おめでとうございます。勝敗はつきましたが、勝っても負けても笑顔があり、お互いを讃え合っているこどもたちの姿を見て、すがすがしい気持ちになりました。まさに、「和を以て貴しと為す」（6月1日の全校朝礼で取り上げました）でした。

校長の講評では、各学年の学年種目を引き合いに出して、

○1年生には、「台風の日」での仲間と共に目標に向かって疾走 →「全力」

○2年生には、「三人四脚」での仲間との一糸乱れぬ歩調 →「信頼」

○3年生には、「斜方投射」での投射のタイミングを合わせるかけ声 →「団結」

を今後の学校生活でも大切にするよう伝えました。

また、ポスターの部のコンテストでは、3年生の★★★★さんに最優秀賞を贈りました。

ご来賓の皆様をはじめ、地域、保護者のみなさまにおかれましては、ご多用の中、こどもたちのためにあたたかいご声援を賜り、誠にありがとうございました。また、PTA活動として運営のお手伝いや、さらには「大綱引き」にもご参加いただきまして、心より感謝申し上げます。



＜最優秀賞作品＞

＜教育実習生からのメッセージ＞

本校では、3週間（6月1日～19日）、教育実習生2名を受け入れました。その間、学習指導をはじめ、学級活動や運動会の運営等も経験しました。

教育実習を終え、こどもたちへメッセージを贈ってくれました。

○★★ ★★ 先生（国語科）

あっという間の3週間でしたが、みなさんと過ごした時間は私にとって大切な思い出になりました。授業で一生懸命考える姿や、休み時間にたくさん話しかけてくれたことがうれしかったです。これからも仲間を大切にしながら、自分らしく頑張ってください。みなさんの活躍を応援しています！

○★★ ★★ 先生（数学科）

3週間、本当にありがとうございました。1年A組のみなさんをはじめとする、学校中の温かい雰囲気に支えられ、有意義な教育実習となりました。授業や運動会での姿、日々の素直さや明るさに、多くの力をもらいました。これからもみなさんらしく、中学校生活を全力で楽しんでください！応援しています！

< 3 学年修学旅行 >



<奈良 法隆寺 五重塔>

先月 5 月 16 日（土）～18 日（月）、2 泊 3 日の京都・奈良への修学旅行を実施しました。

初日は 9:10 新横浜発の新幹線（連合体輸送列車）に乗り込み、11:06 京都着。バスで奈良公園へ移動し、鹿と一緒に記念写真。東大寺大仏殿を拝観後、奈良公園内を班別行動。バスガイドさんから、聖徳太子が制定した「十七条憲法」の第一条「和を以て貴しと為す」の解説を聞きながら法隆寺に到着。法隆寺の五重塔（国宝）は飛鳥時代に建立され、現存する木造の塔としては世界最古です。

2 日目も晴天。朝 6:00 に起床し、宿から徒歩 20 分ほどの清水寺へ。観光客の少ない時間帯だったので、「清水の舞台」などをゆっくりと堪能できました。特に「音羽の滝」では、こどもたちが願いを込めていました。3 筋に分かれて落ちる水には、向かって左は「学業成就」、真ん中は「恋愛成就」、向かって右は「延命長寿」にご利益があるそうです。朝食後、京都市内班別行動。日中の気温は 30℃を超えました。

3 日目も晴天。班ごとの半日タクシー行動でした。運転手さんにガイドもしていただきながら、金閣寺や北野天満宮など少し遠くの見学先へ行ったり、おみやげを買ったり、昼食をとったりした後、京都駅まで送ってくれました。14:39 京都発の新幹線で帰路につきました。



<京都 清水寺 音羽の滝>



<京都 旅館 元奈古>

3 日間、お世話になった京都の旅館「元奈古」は、はんなり（上品で落ち着きがあり、かつ明るく華やかな様子）とした京都の風情漂う祇園高台寺「ねねの道」にある日本旅館でした。食事は部屋食で、趣向を凝らした京料理を楽しむことができました。旅館の前では、多くの外国人観光客が記念写真を撮っていました。

さて、古都京都・奈良は、私の好きな街の一つです。

京都・奈良は何千年もの長い歴史をもち、その悠久の時の流れの中に身を置くと、歴史的なロマンを感じるとともに、心身が洗われる気分になるからです。自らの中学生時代に修学旅行で初めて京都・奈良を訪れて以降、幾度となくこの街を訪れていますが、そのたびに「清水寺」や「金閣寺」、「東大寺の大仏」の印象が異なります。たとえば、「金閣寺」は「きれい」→「優雅」→「侘・寂」、「東大寺の大仏」は「圧倒的」→「偉大」→「神聖」などのように変遷してきました。神社・仏閣が変化しているのではなく、自分の感性が年齢を重ねるとともに刻々と移ろっているのだと思います。私にとっての京都・奈良は、自分の感性を磨き、自分自身の人生の流れを確かめることができる大切な街なのです。

3 年生のみなさんにも、自分にとっての修学旅行の意義を改めて考えてみてほしいと思います。もちろん、義務教育の最後の年に、長い間一緒に過ごしてきた仲間と、青春の思い出の 1 ページを共有化することは、何年後かに振り返った時、人生に潤いをもたせるという意味で大変重要であると考えますが、京都・奈良の歴史的文化遺産や芸術、伝統・文化、人々との出逢いや触れ合い、街並みや暮らし、産業やおみやげ等々を通して、自分の感性を磨くきっかけにしてほしいと思っています。